

オオトビスジエダシャク

6～9月に樹木や草本の葉を食べるシャクトリムシ（幼虫）。最大長35mm。頭の後方で体が太くなる。イチイで1例だけ多発が観察されている。



1. 幼虫。1981/9. 美瑛町, イチイ。



2. 被害。1981/9/12. 東神楽町, イチイ。

【学名】 *Ectropis excellens*

【分類】 チョウ目 (Lepidoptera), シャクガ科 (Geometridae), エダシャク亜科 (Ennominae)

【分布】 北海道, 本州, 四国, 九州, 琉球; 朝鮮, ヨーロッパ。

【特徴】

幼虫の体は胸部でやや太く、尾端近くの背面に一对の小さなトゲがある。体はおよそ茶色、頭部のやや後方、体の中央、尾端近くが暗くなる。

【生態】

寄主：イチヨウ, イチイ, スギ, カバノキ, ブナ, クリ, タデ, バラ, スイカズラ, アヤメなど。

蛹越冬、年2回発生といわれている。北海道では詳しい調査は行われていない。蛹化は落葉中で行われる。

【被害と防除】

被害実態は調査されていない。常緑針葉樹は一般に食葉性害虫に被害に弱く、枯れることがある。多発した場合は防除した方がよいと考えられる。

【文献】

1987. 杉敏郎, 編. 日本産蛾類生態図鑑. 453 pp. 講談社, 東京.

北海道立林業試験場・緑化樹センター

オオトビスジエダシャク shakuga/ootobisu/
kaisetu.htm

「文章」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/4/2.

1yochu.jpg, 1higai.jpg

「写真1～2」 鈴木重孝, 北海道立林業試験場, 1981.